

平成30年度 島田樟誠高等学校 学校評価

平成31年3月8日

教育目標

自ら求めて学ぶ自主自律の精神を養い、心身を鍛えるとともに、校訓「誠、愛、勇」の下に人格の完成をめざす。

教育方針

- 1 学校生活における目標を持たせる。
- 2 学習に積極的に取り組む姿勢を育てるとともに、学力を向上させる。
- 3 思いやりの心を育てるとともに、社会性を身に付けさせる。
- 4 進路意識を高め、進路目標を達成させる。

平成30年度における学校経営方針と具体的目標

学校経営方針	具体的目標	自己評価	成果と課題	関係者評価
教育課題の解決に積極的に取り組む。	目指す学校像を共有し課題に関する共通理解を深め、その解決のための方策を研究し実行する。	B	<p>学力の向上、生活指導の徹底、希望する進路の実現という大きな課題について各担当部署において検討がされ、それぞれ具体的な手立てで実施に踏み切っている。</p> <p>また女子生徒の進路希望や入学生の安定的な確保の観点より、来年度からキャリア探究コースにおいても女子の受け入れを開始し全コース共学化する。40年以上男子だけの学校として続いてきたため、当初、多くの教員に女子生徒の指導に戸惑いが見られたが、次第に共学の環境に慣れ女子指導への積極的な姿勢が見られはじめた。</p> <p>平成31年度入試においては、受検生の急減期にも拘らず前年度比で合格者が+44人となり、特に女子生徒は+46人で大きく増加し、共学化が中学生や保護者に認められてきたと判断できる。3月1日現在、男子218名、女子56名、計274名の入学が予定されている。</p>	B
	キャリア探究コース、進学探究コース、特別進学コースの設置の趣旨を踏まえ、進路の実現を目指して教育課程を実施する。	B	<p>本年度の1年生より「高校生のための学びの基礎診断（来年度から試行）」と「大学入学共通テスト（再来年度から実施）」に対応し、進路の実現可能性をより高める3コース制の教育課程を開始した。3コースごとに検討委員会を立ち上げ、問題点の対応について検討を進めてきた。</p>	
	部活動等に真剣に取り組むことを通じて心身を鍛え達成感が持てるように指導する。	B	<p>本年度は67.6%の生徒が部活動に所属し真剣に活動している。</p> <p>公式戦（高校総体、新人戦、選手権等）では、自転車競技部が全国大会、ソフトテニス部、自転車競技部が東海大会、ソフトテニス部、自転車競技部、卓球部、バレーボール部、陸上競技部、柔道部、バドミントン部、野球部、サッカー部、将棋部が県大会に出場した。また個人活動であるがスピードスケートで女子生徒が、高校総体、国民体育大会に出場しマスコミに大きく取り上げられた。</p>	
	男女共学校としての特性を活かす教育活動を研究し推進する。	A	<p>従来から行ってきた応援指導、規律訓練等、男子校の特色を生かした教育活動を、共学校で対応できるように再構築した。</p> <p>昨年度に続いて、毎月1回(年12回)、FM島田の番組「ハイスクールラジオ」に生徒4人(男子2名、女子2名)が出演し、共学校としての本校をPRした。また「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」に女子生徒2名が出席し、島田市の活性化について意見を述べた。いろいろな機会になるべく女子生徒を出し、共学化の周知を図った。</p>	

目標意識を育てる。	学校生活の各分野における具体的な目標を持たせる。	B	始業式、終業式での校長講話やホームルーム、部活動の中で、目標を持つことの大切さを繰り返し話してきた。また全学年で週1時間実施している「夢実現プロジェクト」で、早期に進路目標を持たせる指導を行っている。その結果、目標を持って学校生活を送る生徒が増えてきた。	A
	目標達成の手掛かりとして各種の資格試験や検定試験等に積極的に挑戦させる。	B	授業や夏季講座において、漢字、英語、数学、日本語ワープロ、情報処理、レタリング、フォークリフト、救急救命、危険物取扱等の検定試験や講習の対策を行い多くの生徒が挑戦し資格を取得した。	
学習指導を充実させる。	校内外の研修に積極的に取り組み、学習指導を研究し授業の質の向上を目指す。	B	県私学協会、県教育委員会主催の研修会をはじめ、近隣の中学校や高校などの研究発表会に主として中堅や若手職員を積極的に派遣した。必要に応じてベネッセやクルートの研修会も利用した。 校内においては、年3回実施している基礎力診断テストの分析会をその都度実施し、生徒の学力の実態を把握し、日頃の授業に生かせるような研修を行った。	B
	チャイムと同時に授業を始め、授業に真剣に取り組む姿勢を育てる。	B	更に改善の余地がある。授業中の生徒の様子は、一部に集中力を欠いているものも見られ更なる授業への取り組みの徹底が望まれる。	
	分かりやすい授業による基礎学力の習得と、進路に応じた発展的な学習指導の徹底により、個に応じた学力を向上させる。	A	昨年に続いて6月に公開授業日を設定し、全職員が公開授業を行い参観者が感想を授業担当者に提出した。 年8回の全校漢字テストとマナトレ（数学の学び直し）は例年同様実施した。またベネッセコーポレーションの基礎力診断テストをキャリア探究コース、進学探究コース、総合コース1・2年生で年3回、総合コース3年生で年1回実施した。また特別進学コースでベネッセコーポレーションの進研模試を1・2年生が年3回、3年生が年1回、河合塾の全統模試を3年生が年7回実施した（他コースは希望者が受験）。これらの取り組みを新テスト（高校生のための学びの基礎診断、大学入学共通テスト）や就職試験、大学受験等の結果向上につなげたい。 また、生徒全員に各科目のシラバスを配布し、授業計画、テスト範囲等を明確化した。	
	読書の習慣を身に付けさせる。	B	毎朝10分間の朝読書は定着しており読書習慣が身に付いている。しかし一部に集中力に欠ける生徒も見られ指導の徹底が求められる。	
	コミュニケーション能力を育てる。	B	本校には、コミュニケーションを苦手とする生徒が多い。そこで3年生の就職希望者に対して本校職員による面接練習を重ねた後、島田商工会議所青年部の方による模擬面接（8月24日）、本校理事、評議員、保護者の方による模擬面接（8月31日）を実施した。面接練習だけでなく入学時からの日常生活の中でコミュニケーション能力を高めていく効果的な育成方法を模索している。	
生活指導を徹底する。	人を思いやる心を育て、ルールやマナーを守る意識を高める。	B	意識の向上が見られるが、徹底したとはいえ生活指導を受けた件数が増加した（昨年度8件→本年度11件）。自転車のイエローカードについては、定期的な街頭指導や事後指導を行っているが、違反件数も多く、更にきめ細かい取り組みが必要である。女子生徒の入学より男女交際のトラブル等これまでにない生徒指導が出ており、敏速な対応が求められる。また男女共学化にともない、生徒指導規定の全面的な見直しを行った。	B
	自主的に、明るく、さわやかな挨拶をするように指導する。	A	運動部活動での挨拶指導や、朝の登校指導等が功を奏し、多くの生徒が気持ち良い挨拶をしており、近隣の方々からも評価されている。	
	規則正しい生活習慣を確立し、遅刻、欠席をしないよう指導する。	B	毎朝、正門、西門、生徒昇降口に校長、教頭、学年主任、生徒指導主事、担任等が立って登校指導を行い、またクラス担任が遅刻、欠席が多い生徒に家庭と連絡を取りながらきめ細かく指導している。更に生徒指導課を中心に8:25登校を奨励している。年間を通じてみると欠席は微増、遅刻は横ばい傾向にあり、更に指導を徹底したい。	

	服装、頭髪、交通安全等の指導を徹底する。	B	計画に基づいて、学期に1回、生徒指導課が主催して全校一斉頭髪服装（眉・ピアス）検査を実施し、また月1回、学年における頭髪服装検査も行った。検査に合格できるまで指導を重ねることに因り、服装、頭髪等に関しては良好な状態にあるが、女子生徒には、従来以上にきめの細かい指導が求められる。	
進路指導を充実する。	組織的、計画的な進路指導体制を確立し早期に卒業後の進路目標を立てさせる。	B	「進路のしおり」に基づき1年次からの計画的なプログラムを作った。また、全学年で「夢実現プロジェクト」の時間を使って組織的な進路指導を目指している。静岡新聞の「Futureしずおか」等と連携して働くことについて考える機会を持たせ、面接の練習、進学就職説明会、講話などの機会を更に増やすと共に、筆記試験で躓くことの無いよう基礎学力の向上にも力を入れたい。全職員の進路指導の力を伸ばすための研修も継続する。また男女共学化に伴い進学では指定校推薦の選考基準、就職では応募前企業見学の実施等、指導体制の大幅な見直しを進めた。	B
	進路意識を高め、目指す進路目標の実現に向けて指導を強化する。	B	進路指導は、毎年、進路指導課作成の「進路のしおり」を基に各学年で年間計画を立て、LHR等を利用して実施した。全学年、進路学習として週1時間「夢実現プロジェクト」（自分の特性を知る、仕事や進学についての理解を深める、自分の目指す進路先について志望の理由をまとめる、面接の練習をするなどを計画的に行い、自分に適していると思われる進路を絞り込んでいく授業）を行っている。大学進学希望者には、合格した卒業生の合格体験談を聞く会や大学見学等の進路意識を高める機会を作った。 進路決定状況は、3月1日現在で4大進学50人、4大進学準備中4人、短大進学5人、専門学校等56人、専門学校進学準備中2名、就職79人、就職未定1人となった。就職については求人企業の拡大を目指し、大学進学指導については、各大学の特色、入試制度や入試の内容の研究を深めたい。 なお特別進学コースから静岡県立大学薬学部等、難関大学に合格者が出ており、在校生の進路意識を一層高める手立てとしたい。	
	進路指導に関する資料の充実・整備を図る。	B	進路閲覧室に、進学用・就職用の資料が整備されており、生徒、職員が随時利用している。今後、受験者が作成した大学等の入試や就職試験の報告書を蓄積し、個別の大学や企業の試験内容の分析を深めていくことが求められる。	
安全や健康に関わる教育を推進する。	安全や健康に配慮した環境の整備を図る。	B	例年、保健委員会の生徒が「保健便り」を発行（年間8～9号）し、健康に対する啓蒙を行っている。また、時期ごとの流行性疾患については養護教諭を中心に、手の消毒液の全クラス配置をはじめ早めの対応をしている。本年度は、1月に入ってインフルエンザが流行し2クラスが学級閉鎖したが、感染拡大を防止することができた。 施設面で全コース共学化に向けて東棟トイレの改修工事が9月中旬に完了した。	B
	健康について関心を高め、日常の健康管理が実践できるよう指導する。	B	インフルエンザ、感染性胃腸炎等の流行が予想される時期には、一定期間継続して朝のSHR時に全校一斉健康観察を行って報告させ、全校的な取組みを迅速に実施できるようにした。	
	地震等の災害に対する防災意識を高めるため、防災訓練等の方法を工夫する。	B	6月、11月の防災訓練では、平常の授業時に抜き打ちで避難訓練を実施し、実際の災害時に備えた。発災時に生徒がいる場所からの避難経路を選択できるよう、毎年条件を変えて訓練を実施していきたい。	